

# 恵みと真理のニュース



2013年4月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## [証] 福ある人の道に立つ

先、豊かな生きができるように導いてくださって感謝します。

私は田舎で暮らしながら青年の時から親の反対にもかかわらず教会に通いました。人間の罪を贖われのため十字架につけられたイエスの愛と救いの恵みに対する福音を聞いて信じて生きよう努力しました。しかし、当時には「どうすれば神様に栄光を捧げることか」、どのように生きれば神様が下さった人生の価値ある生き方なのか、私は深く悟らなかつたので、毎週主日に教会へ行って礼拝を捧げることが全部でした。結婚してからは安山で暮らしました。経済的に豊かではない新婚生活を始めました。ある日、恵みと真理の教会に通う勧士が家に訪ねて来て、教会の話と当会長牧師について話しながら一緒に教会へ行こうと進めます。アンサンに引越してから祈りの課題の一つが御言葉が熱い教会に通うこと、聖霊に満たされる主に栄光を捧げることでした。神様が私の祈りを聞いてくださって恵みと真理の教会に導いてくださいました。教会に行くと礼拝を捧げる喜びが溢れて教会に行く日を待ち、メッセージを聞いて受けた恵みを楽しみました。その時を思い浮べると今は各地域にたくさんの教会が立てられてとても感謝しています。

教会が遠くて夜に捧げる月曜日祈り会と金曜日の徹夜祈り会には参加することができなかつた。ある日、私の区域長が「今日、月曜日祝福祈り会と一緒に祈りましょう」と誘いました。その話に従い月曜日祈り会に参加しました。切に祈りをするうち聖霊に満たされまして、異言を話す賜物を受けました。すると、世が完全に違うように見えました。幸

せな心でいっぱいでした。世と人に対する見方も新たになりました。神様の御言葉を読んで信仰はもっと成長するようになりました。生活の苦しみがあっても主が与えてくださる喜びで常に感謝するようになりました。

その後、区域長の役割を任せられました。感謝する心で区域を任せられて、伝導しながら教会と聖徒のため献身するやりがいと喜びが分かるようになりました。役割をしながら主の働きは自分の知恵と能力でできることではないことを深く悟りました。不足でも弱くても忠誠した心で働いていけば、主が下さった役割を担う力を与えて、助けてくださること、時には伝導の実を結ぶようになるのを学びました。

不足な私を主の忠誠な働き者として導いてくださった神様にいつも感謝しながら頑張る伝導しました。伝導は私に世がくれない神霊な楽しみを与えてくれました。伝導の実を結ばなくても落胆しなく諦めませんでした。忍耐をもって伝導すると、「蒔いたものは刈り取るようになる」神様の言葉のとおり、区域長セミナーで伝導賞をいただく喜びも感じました。あつという間に歳月が経って首石区域長になりました。旦那の職場がソウルにあったから仕事が終わって帰って来ると夜11時になりました。それで私は主の働きをする時間が多くて大変感謝することでした。

ところが、旦那は私がイエスを信じて教会へ通うことをひどく嫌われていました。キリストを異端の団体や属している者たちの反社会行為に対する放送があったので、まるで教会がそのようになったかと思っているようです。

ある日、夜遅く家に帰って来た主人がいきなり私に「通帳を全部出して見なさい」と言いました。旦那に詳しく話を聞いて通帳を見せると

私が教会に通いながら家庭の生活も節約し、貯蓄まで蓄えているのを確認しました。それから私をほめながら自分ももっと頑張る仕事をすると誓いました。

まじめに教会へ通い伝道にも頑張ると周りの人たちが色々な話して咎めました。あの女は毎朝から夜まで教会の働きばかりで伝道しているのを見ると「たぶん家の事はめっちゃくちゃだろう」と悪口を言う人もいました。

ある日、私の家に来て見た隣の女たちは驚きました。ちゃんと家庭の事もよくやっているし、家もきれいに整理整頓もよくできているのを見たからです。教会にも益になり、イエスを信じる者の模範になる考えで信仰生活をしながら、お母さんと妻の役割も忠実にしようと努力しました。こんな姿を見せながら、隣人からも伝導の實りを結ぶことができました。

まず、神の国と神の義を求め生活をするしながら神様が下さる祝福と恵みを多く受けました。旦那がイエスを信じ救いを受けました。それで家庭福音が成し遂げられました。このことよって喜びは言えないほどです。ご主人が感謝することですが、私は旦那に感謝して誇らしました。経済的にも安定になって家族みな健康に過ごしています。

息子が大学に通いながえあ警察公務員の試験に合格して犯罪者をたくさん捕らえて実績も積って昇進しました。最近では神様が与えてくださったお嫁に出会って幸せな家庭も立てました。いつも神様に感謝し信仰と従順で生きたので神様が時期にかなった助けの恵みをたくさん下さいました。限りがない神様の愛を全部書けないのを告白し、神様に感謝と賛美を捧げます。ア—メン



## [信仰コラム]

## イエスの質問と指示を聴従しなさい

死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。

イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」。(John 11:32~44)

定ベタニ村に二人の姉妹マルダとマリアが兄弟ラザロとともに暮らしていました。イエスは彼らに特別な関心を見せし彼らもイエスをすごく愛しました。ある日ラザロの病気の危急な状態になってラザロの妹たちが人をイエスに送っていらっしやうって直して下さるのを懇請しました。イエスは急な言伝だと分かりながらもいらっしやうった所に二日も泊まった後弟子たちを連れてベタニに向けて出発しました。そんな間ラザロは死んで墓に葬られてからもう四日になりました。出迎え行ったマルダは村入口でイエスをお目にかかってこんなに言いました。「主よ、ここにいらっしやうたら私の兄弟が死ななかつたはずですが。しかし私は今で主が神様に求めることは何でも神様がくださることができました。」イエスがマルダに「あなたの兄弟はよみがえらるであろう」と言いました。マルダは「終りの日のよみがえりの時よみがえること、存じています」と答えると、イエスが「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」と言わ

れました。

イエスはマリアと慰問しに来たユダヤ人たちが泣くことを見て歎息して不憫に思って、マリアにラザロの墓で自分を導くことを要求しました。大きい石で入口を阻んでおいた洞窟墓の前に立ったイエスがマルダに向けて「石を移しておきなさい。」しました。続いて本文に記録されたイエスの質問と指示の中非常に貴重でありがたい教訓があります。

イエスは涙を流すマリアに質問するのを「彼をどこに置いたか?」しました。解決受ける願う問題の現場でキリスト様を導きなさいという要求でした。「君が治るのを願うのか?」「君が悲しんで悩む問題がどこにあるのか?」と神様が皆さんに聞くように求めて捜してたたいて熱情と忍耐を持つようにしてください。涙を流してつらさと悲しみを神様の前に露出してください。神様がこのような人を注意深く見て尋ねたりなさって時には呼んだりなさってか弱い信頼を強くしてくださって奇蹟を施します。

イエスは「マルダよ、石を移しておきなさい。」は思いがけない指示をしました。ここにマルダは「主よ、死んでから四日になってもうにおいがします。」して難色を表明しました。するとイエスが断固たる音声で「君が信じれば神様の栄光を見るしなかつたか?」しました。それからは折った後墓を向けて大きい音で「ラザロよ、出てきなさい。」と叫びました。すると死亡者がむっくり起きて出ました。マルダが石を移しておくのをためらったわけは石の粗大で重

い重さや人々の目と判断のためではないです。イエスの意志の絶対性とお話の絶対性に対する信頼が不足だったからでした。状況や境遇よりイエスの意志がもっと重要です。人間の知識と経験と感じより神様のお話に最高権威を置かなければなりません。

イエスが人々に「解いておいて通うようにしなさい。」と指示しました。生まれかわることは人ができない事です。しかし生まれかわった人が神様が許し願えた喜びと勝利と幸せを享受することは自分が力をつくしてすべきことであり成道者たちがお互いに助けてすべきことです。ねじへの頭でとり除かなければならないタオルと手足でとり除かなければならないセマポで私たちは象徴的な意味と教訓を得ることが出来ます。人間的な我執と偏見をとり除かなければなりません。また否定的な意識をとり除かなければなりません。また破壊的な情緒をとり除かなければなりません。また悪い言語習性をとり除かなければなりません。神霊な喜びと能力で充滿する生を暮らすことができないように縛っているこのようなものを脱いでしまうための必須要件があります。決断を下してください。聖書お話を常に黙想してください。聖霊の充滿することを受けてください。皆さんはイエスの質問と指示に内包された意味が分かってそのまま生に適用して奇蹟と勝利と豊饒を経験するようになってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

聖書のすべての句節に神様のみ旨が現われています。その中に“これは神様のみ旨だ。”と明示されているみ言葉があります。テサルロニケ 1 書 5 章 16 節から 18 節までの言葉です。“いつも喜んでいなさい絶えずに祈りなさい凡事に感謝しなさいこれはイエスキリストにあってあなたたちに向けた神様のみ旨であると”言いました。今日はこのなかに“すべての事について感謝しなさい”と言うみ言葉を詳らかによく見ます。人の欲望は終りが無いからこの世の中に住みながら万事が満足した状態にある人と言うのはないです。しかし満足した状態ではないと言って感謝することができないわけではないです。逆説的だが満足することができない部分があるからそれを乗り越えて変化させながら改善しようと試みができたら感謝する事です。パウロとシルアノはピリピの城で福音を伝えている途中告発されて不当な裁判を受けてひどく打ちたたれました。そして深い監獄に閉じこめられました。そんな都合でも夜中に大きい音で祈って讃嘆しました。ひもじさと喝き、苦痛の中でも神様に感謝する心が充満して讃嘆しました。満足した状態ではないと言って感謝することができないわけがないということを行動で見せてくれた示しです。“私の神様が啓示だからありがとうございます。”と言う人から感謝する考えと感謝する言葉を禁止する方法はないです。信仰の深い人は感謝の理由を捕捉するとか感謝を感じる能力がすぐれます。イエスキリストの中にある聖徒たちながら感謝する心がなくて感謝を表現する事がなければ感謝を感知する霊的センスが故障したのです。感謝を感じる感受性を回復していつも正常状態を維持するようにするために念頭に留めおいて実践する事が二つあります。

**第一、自分が持ったことと享受することを当然視するくせを投げ捨てなければなりません。**

自分が持ったこと、獲得したこと、享受することを当然視すれば彼の心と口で感謝が消えます。私たちが持ったことや享受することの中で私の努力によってだけだったことだと話せることは一つもないです。人は誰も手ぶらで世の中に生まれて手ぶらで世を去ります。新約の聖書コリント書に見ればコリント教会は神霊な恵みがふんだんな教会でした。ところでパウロ使徒が見る時教人たちから弊端が発見されました。彼らの驕慢になる態度でした。そしてパウロはコリント教会に送った手紙でこんなに質問しました。“いったい あなたを偉くしているのは誰なのか あなたの持っている物でもらっていない物があるか もし もらっているならなぜ もらっていないもののように誇るのか” (コリント 1 4:7) しました。

**すべての事に感謝することに決断しなさい**

パウロ使徒は三種類の質問でコリント教人たちの驕慢の考えが誤ったのを指摘しました。先に、“誰があなたを偉いと区別したのか?”と質問しました。コリント教人たちは彼らの中に現われる多様な恵みたちによってすごい自負心を持ちました。そして手前味したし 党を作って紛争を起こしました。彼らが福音を聞いて悔い改めて聖徒になって聖霊の恵みを受けるようになったことが全面的に神様の恩恵になったことなのを忘却していました。パウロは手紙の書き始めて“コリントにいる神様の教会すなわちイエスキリストにあってきよめられ聖徒として召されたかたがたへ” (コリント 1 の 1:2) と言ったし“私はあなたがたがイエスキリストにあって与えられた神様の恵みを思っていつも神様に感謝している” (コリント 1 の 1:4) しました。彼らが神神しくなって聖徒と呼ばれるようになったことがただイエスキリストの中でのことで神様の恵みになったことだと強調しました。次は、“あなたに在ることの中に受けないのが何なのか?”と質問しました。コリント教人たちが神様頃から受けなくても所有して享受するのが何なのかと問っています。終わりは、“受けないことのように誇るのか?”と質問しました。自分の自慢を楽しむことは神様頃から受けないことのように行動することと同じです。コリント教人たちの驕慢は自分たちが持ったことと享受することに対して当然視することによってできたのです。もし誰でも救援を得たこともこのように思うなら彼は神様の国で排斥される者になってしまうでしょう。ローマ書 3 章 23 節、24 節に記録されるのを “すべての人が罪を犯したので神様の光栄に至ることができなかつたのにイエスキリストの中にある救贖によって神様の恵みで無価値に義のあつてなことを得た者になったと” 言いました。救援に関しては自分の努力や功労がどんな無駄だということを徹底的に分らなければなりません。そんなにすれば救援を受けたという事実だけ持っただけから常にも感謝する心で生きて行くようになります。パウロ使徒は告白するのを “しかし神様の恵みによって私は今日あるを得ているのである。そして私に賜わった神様の恵みは無駄ではなくて私がすべての使徒よりもっと多く働いてきた。しかしそれは わたし自身ではなくわたしと共にあつた神様の恵みである” (コリント 1 の 15:10) しました。“当たり前なことは一つもない。私が持ったこと、享受することその一つ一つがすべて神様の贈り物で恵みである。”と認識して感謝する考えが皆さんの心を一杯に満たすように願います。

**第二、自分が持った事と享受する事をなおざりにするくせを投げ捨てなければなりません。**

ヘレンケラーは 1880 年アラバマで生まれて 1968 年 88 歳の年で世を去りました。幼いヘレンケラーにある日 急に近付いた高熱は聴力と視力を同時に奪いとられました。過ぎない 1 才に視力と聴力を失ったヘレンケラーは世の中がどんなに生じたのか、世の中に音があるのか、色があるのか、事物に名前があるのか、親がどんなに生じたのか全然分かることができなかったです。ヘレンケラーはコップに入った水を飲みながらもコップと水が他のことかも区別することができなかったです。

こんな女の子が育ってハーバード大学を正式で卒業しました。ハーバード大学を卒業した後体が痛くて 1 年間療養をするうちに自分がすべきことを思い出しました。すべての障害者に機会と希望を抱かれてくれる事に一生を捧げる事にしました。ヘレンケラーは障害者たちのために一生を捧げながら疲れてだるい生を暮したが一方では無限な喜びと喜悦を享受しました。そして偉い愛に称尿されるのに至りました。ヘレンケラーは “3 日間さえ見たら” という本にこんなに記録しました。“私がこの世の中を生きる間に唯一の所望が一つあると言え、それは死ぬことの前に 3 日間だけ目を開いてみるのだ。もし私が目を開いて見られたら私は私の目を開くその始めて瞬間私をこんなに教えてくれて教育をさせてくれた私の先生ソリバンを、手先で触って分かった彼の善良で慈しみ深い顔そして彼の美しい体つきなどを何時間でじっと見ながら彼の姿を私の心の中に深くおさめておく。次は私の友達を尋ねてその次は野で山で散歩をする。風でひらひらする美しい木はっぱたち、のはらに咲いているきれいな花たちと草たちそして夕方になれば夕陽に輝く美しい夕焼けたちを見たい。翌日早い夜明けには夜明けが白む 雄大壮麗な場面、朝にはメトロポリタンにある博物館、午後には美術館そして夕方には宝石みたいな夜空の星を見ながらまた一日を過ごすでしょう。最後の日には朝早くお道りに出て出勤する人々の顔表情たち、朝にはオペラハウス、午後には映画館へ行って映画を観覧して、しかし いつのまにか夕方になれば わたしは建物の森を成している都市の真ん中に出てネオンサインがきらめく通り、ショーウィンドウに陳列している美しい商品を見て家に帰って来て私が死ななければならぬ最後の瞬間に私はこの 3 日間だけでも見られるようにして下さった 私の神様に感謝する祈りを差し上げて永遠な所に帰る。” しました。ヘレンケラーが持った所望は元気な目を持った人々には心に決めればいつでもできる簡単なのです。この文は私たちが無情に越して経験することがいくら驚くべきで貴重なものなのかを悟るようにしてくれます。見られる目と聞くことができる耳を持ったら見ることに聞くことを無心に度が外れるのではなく宝物を捜すようになった楽しさを持たなければならぬでしょう。神様が皆さんにくださって享受しているものなど一つ一つ量って見てください。その数がいくら多いかを悟って驚くでしょう。そしてそういうものなどのありがたさをいくらなおざりにしているかに対しても悟って驚くように願います。イエスキリスト中にいる人々は世の中が与えることができないし奪うことができない貴重で珍しいものなどをふんだんに受けました。私たちはこれらを思うので “神様に感謝してありがとうございます。”と言わなければなりません。感謝で充満すればいつも元気な心で生きて行くことができます。すべての事に感謝しながら生きて行くことは聖徒に向けた神様のみ旨です。クリスチャンはこのみ言葉のどおり行わなければならないのみならずいくらでも行うことができます。聖徒の皆さんは “すべての事に感謝しなさい” というみ言葉のどおり暮すのを決断して実践してください。